

前回の論点に対する事務局の考え

1 総合計画審議会委員からの意見に対する市の対応方針について

- 【資料2】として、各委員から出された意見に対する市の考え方をお示するとともに、意見内容をもとに修正可能な部分については【資料3】のとおり総合計画評価を修正。
- 前回の議論結果や、意見の種類・内容等から事務局が意見を整理し【資料3】に「総合計画審議会意見」を記載。
- 「総合計画審議会意見」は、【資料2】における「総計審意見」の列に「○」を付したものを事務局(案)として抜粋して作成。「×」としている意見でも、追加すべきものがあれば、今後追加していく想定。

【資料2】

委員意見	分類	内部評価を修正	総計審意見	既に対応済みの事項
総合計画スタート年次であり、なおかつコロナ禍直後であることを勘案するとともに、評価の仕方も試行という意味合いもある中では、まずまちづくりの目標の端緒として妥当と言える。なお、KPIについては、「No.189、190」に記載した意見のとおりである。			○	P1
総括評価の書き方として、R4年度における取組とその成果、今後の方向性と課題といった順で整理して記述したほうが良い。やったこと、これからやること、現在進行形のこと、評価、課題が順不同に記載されている印象で、PDCAを意識した記述になっていない。	企画政策課	意見	○	P1
No.1の小田原に住み続けたいと思う人の割合の総括評価について、地域医療や子どもに関する政策が記載されているが、意識調査で「いずれ転居したい」「転居しない」の合計は20代の約24%、30代の約28%、40代以上はおおむね約8%程度になっている。20～30代の転居したいという理由は、20代では不便さが5割、交通利便性が4割、娯楽や余暇の少なさが5割、30代では子育て支援の不十分さが1/3、交通利便性が3割などとなり、そうすると、地域医療や子どもよりも、まず交通利便性に言及し、そのうえで娯楽や余暇、子育て支援の不十分さを念頭にいた政策を評価すべきではないか。			×	既に対応済のため

「総計審意見」に「○」があるものは「総合計画審議会意見」の欄に意見を記載（意見のうち、赤字部分を抜粋して記載）

「内部評価を修正」に「○」があるものは意見の主旨にそって【資料3】を修正

<項目ごとの意見件数>

※()内数字は「○」の数

- まちづくりの目標 11 (4)
- 重点施策 73 (28)
- 施策・詳細施策 92 (42)
- 推進エンジン 17 (9)
- その他 16 (8)
- 合計 209 (91)**

「総計審意見」に「×」となっているものは、意見を記載しない理由を隣のセルで明記

【資料3】

No.	目標	目標 (KPI) 名	基準値 (基準年)	目標値 (目標年)	方向性	実績値			総括評価
						R4	R5	R6	
1	生活	小田原に住み続けたいと思う人の割合	90.4% (令和3年度)	95% (令和24年度)	↑	90.5%	-	-	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染者数が増加する状況においても、地域の医療機関が連携することで医療崩壊にはならず、日頃からの地域医療連携による効果を再認識できました。また、都市計画マスタープランを改定するとともに、公・民・学の連携でまちづくりに取り組むアーバンデザインセンターを設立するなど、まちづくりに係る推進体制を整備しました。さらには「第2期小田原市教育大綱」と「第4期小田原市教育振興基本計画」を一体的に策定し、今後5年間に目指す教育の理念や目標を定めるとともに、「第2期小田原市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しと併せ、「子どもの貧困対策推進計画」を包含した計画へと改定するなど、子どもが夢や希望を持って成長できるまちの実現に向けた基礎づくりを行っています。</p> <p>・今後も、ソフト・ハードの両面からまちづくりを進めるとともに、こども家庭庁をはじめとする国や県の動きとも連動した子ども・子育て政策を推進するなどで、市民の生活の質が向上し、小田原に住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきます。</p>

総合計画審議会意見

・総合計画スタート年次であり、なおかつコロナ禍直後であることを勘案するとともに、評価の仕方も試行という意味合いもある中では、まずまちづくりの目標の端緒として妥当と言える。

・総括評価についてはPDCAを意識した記載とすること。

・全体的にコロナ対応を優先していたが、新型コロナウイルス感染症が5類相当に移行するなど、社会情勢的確に対応したスピード感のある対応をお願いしたい。

・「豊かな環境の継承」というまちづくりの目標の柱としては「自然環境と市民が共生できるまち」と「気候変動にも対応した持続可能なまち」のふたつがあるが、ここではグリーンインフラのような適応策でも同等に環境の保全・継承にもつながる取組に関する視点も必要ではないか。

- ### (分類)
- 既に対応済のため
 - 様式等の変更が必要であるため
 - 個別事業に関する内容であるため
 - 感想・謝意などであるため
 - 質問であるため
 - 要望・提案などであるため
 - KPI・目標に関する内容のため
 - 総合計画評価に関する内容でないため

2 会議当日の論点について

- ご意見のうち、様式・記載方法に関する意見については、総合計画審議会意見として扱うか否かにより、次年度の対応方法が変わるため「**当日議論**」とさせていただいた。
- KPIや目標値を修正するもの(施策9 詳細施策3、施策14 詳細施策2、推進エンジン2 詳細施策3)について、修正案のとおりで良いか。

「当日議論」とした意見

- KPIの基準年がコロナまん延下(R2～R4年度)の場合、特殊な数値の可能性があるので、**コロナ禍直前**(例えば令和元年度)の数値も示したほうが良い。
- 「施策・詳細施策」の【取組内容】の欄は、現在文章で書いてあるが、**箇条書きの方が良い**。

KPIおよび目標値修正案

KPIを設定当時に実施されていた調査が廃止となったため、**KPI**及び**目標値**を変更するもの

	目標(KPI) 名	基準値	目標値	目標値の算出根拠
施策14 農林業 詳細施策2 農業生産基盤の整備・保全	耕作放棄地解消面積 【R4～の累計】	-	1.5ha	直近5年間の耕作放棄地解消面積の年平均(0.5ha)を令和4年度～令和6年度の3年間で毎年実施すると仮定 年間実施面積(0.5ha) × 3年 = 1.5ha

累計数値のうち、令和4年度実績がA評価となっているため、**新たな目標値**を設定するもの

	目標(KPI) 名	基準値	目標値	R4実績値	新目標値	目標値の算出根拠
施策9 地域活動・市民活動 詳細施策3 まちづくりの担い手育成	市民学校卒業生・修了生の担い手実践活動人数	36人 (R2)	90人	143人	251人	基礎課程・専門課程の定員100人のうち、卒業生及び修了生を90人とし、そのうち60%が活動すると仮定した (54人) × 2年 = 108人 + 143人 = 251人
推2 公民連携・若者女性活躍 詳細施策3 公民連携によるSDGsの推進	SDGsパートナー登録者数	142者 (R2)	260者	272者	346者	推移…第1期：37者(うち1者辞退)、第2期：55者、第3期：50者、第4期：50者、第5期：81者 第1期登録数(37者)のペースで毎年増加すると仮定した R4実績値(272者) + 【(37者) × 2年】 = 346者